

令和8年（2026年）9月10日

箕面市長 原 田 亮 様

箕面市立病院指定管理者評価委員会
委員長 土 岐 祐 一 郎

令和7年度箕面市立病院の指定管理者による管理運営状況の
点検及び評価について（答申）

令和7年(2025年)2月8日付け箕病新第31号をもって箕面市長から諮問のあった標記の件について、下記のとおり答申します。

記

1. 評価の方法

指定管理者（医療法人協和会）から令和7年度の事業実施状況の報告を受け、本委員会で審議のうえ、別添の「評価表」により評価をとりまとめた。

2. 総評

指定管理初年度において、病院運営に必要な人材を確保し、休止病床の早期再開を果たした。また、円滑な地域医療連携により高い紹介率・逆紹介率を維持したこと、救急医療体制の強化により救急車応需率を大幅に向上させたこと、がん診療の充実に寄与する新たな取組を実施したことを高く評価する。

収支状況については、事業収益の向上、委託費等の費用の適正化の取組により、当初計画よりも赤字額が縮小されたことを評価する。

一方、脳神経外科の医師確保、障害者雇用の促進については、引き続き改善に向け取組を進められたい。また、回復期医療については、新病院への円滑な移行を見据え、地域の医療機関との連携に十分留意されたい。

そのほか、当委員会における議論を踏まえ、次年度以降も、職員一丸となって選ばれる病院をめざし、より充実した医療の提供と経営基盤の確立に引き続き努められたい。

3. 添付資料

・評価表

評価表

【採点欄】 4：よくできている 3：できている 2：やや改善が必要 1：早急に改善が必要

項番	評価項目		評価の観点	指定管理者		評価委員会	
				自己チェック	採点	コメント	採点
1	運営	病院の 利用状況	十分な患者数を確保し、安定的に稼働できているか。	指定管理制度移行に伴う看護職員の入れ替わりにより、夜間看護体制の確保が出来ず一部病棟運用を縮小していたが、9月には休止していたすべての病床の運用を開始した。また、病院救急救命士の配置など救急受入体制の充実などにより、11月以降の1日当たりの入院患者において、目標を上回る確保ができた。結果、年間目標となる延べ入院患者を概ね確保できた。 外来患者は、事業計画目標患者数を下回っているものの、紹介率・逆紹介率は目標を上回る状況となった。	3	・運用病床の回復は高く評価される。 ・病院救急救命士の配置など救急受入体制の充実など、より評価できる。 ・病床稼働率・利用率は目標を上回っているもののまだ余裕がある。特に回復期病床の稼働はまだ不十分である。 ・外来患者数が目標を下回っていることは紹介受診重点医療機関としては問題ないと思われる。 ・「十分な」をどう評価するかですが、フル稼働が9月からという環境で、救急車受入や応需率の向上に努め、計画を上回る病床稼働率であったことを考慮すれば「できている」と評価できようかと思いました。ただし、収支均衡レベルを前提とした場合に、低稼働の小児病床30床を抱えながらの急性期病床の稼働率向上（新入院患者集患）、回復期病棟の稼働率の底上げを今後どのように図っていけるかが課題と思われます。また、外来患者についてもあるべき水準の見直しが必要と思われます。 ・指定管理制度移行に伴う看護職員の入れ替わりがある中で、年間目標となる延べ入院患者を概ね確保できる見通しとなり、外来患者の紹介率・逆紹介率は目標を上回る状況にあることは望ましい内容と判断します。 ・外来患者数が目標数に未達。目標数650人/日に概ね50人/日少ないことは注視しなければならない。今後「選ばれる病院」となるために有効な施策を早急に実施すべき。	3

項番	評価項目		評価の観点	指定管理者		評価委員会	
				自己チェック	採点	コメント	採点
2	運営	病院の経営状況	十分な収益を確保し、その中で費用をコントロールできているか。	積極的な救急患者の受け入れや効率的な手術室の運用を行うことにより入院単価を上昇させ、計画より事業収益が657,027千円上回った。 委託業務の内容・範囲を見直すとともに、検査部門において分析装置、試薬、消耗品、情報システムを一括で提供を受けるFMS方式(ファシリティ・マネジメント・システム)を新たに導入するなど費用の適正化を図った。一方、給与費が計画より446,402千円上回った。 結果として事業計画に定める経常利益▲665,979千円より222,326千円少ない▲443,653千円となった。 ●医療材料費比率：23.3% ●職員給与比率：61.7% ●経常収支比率：97.9%	3	・医業収支、経常収支とも計画を大きく上回っている。しかし、4.4億円の赤字なので、建て替えまでにはできるだけ赤字を減らすようにお願いしたい。 ・病院経営が厳しい時期に非常によく頑張っている。 ・R7年度は計画外の補助金収益の計上(処遇改善・物価高騰分とも給与費・材料費経費に反映)がありますが、計画値を上回った(赤字額を低減した)結果をもっては「できている」と評価できようかと思いました。ただし、「十分な収益を確保し」の観点では、建物・機器設備の償却費が無いことを勘案すると、診療単価が計画(報酬改定前のR5実績ベース)を上回ったとはいえ、赤字解消に向け、収支均衡に必要な単価向上が、集患と併せて求められると考えます。 ・経常損失が、計画のマイナス665,979千円に対し、実績はマイナス443,653千円で、計画より222,326千円改善していて、当初計画より経営結果が良かったことは明確といえる。ただし、経常収支比率は97.9%であるところは、今後を期待したい。 ・給与費は計画より446,402千円上回り、収益の上振れ657,027千円の相当部分が給与費の増加によって相殺されているように見えます。ただし、指定管理移行時の看護師確保、欠員補充、応援職員、時間外勤務、採用費用など、一時的な移行コストもあるとは推察します。 ・赤字幅の減少は評価できる。 ・救急患者数目標数に未達。さらに「選ばれる病院」を目指し、受け入れ態勢の充実を図られたい。	3
3		病院の機能	施設基準や各種認定・指定等の管理、報告が適切に行われているか。	大阪府がん診療拠点施設の指定継続申請など、施設基準や各種認定・指定等の管理、報告を適切に行った。	3	・妥当な対応と考えられます。 ・適切な報告が行われている。 ・老朽化した病院機能で良く健闘していただいている。	3

項番	評価項目		評価の観点	指定管理者		評価委員会	
				自己チェック	採点	コメント	採点
4	医療サービス	救急医療の提供	市内唯一の救急告示病院として、断らない救急が実践できているか。	病院救急救命士を新たに配置するなど救急医療体制の充実に努め、令和7年度の救急車応需率は84.3%、目標に比して約20ポイントUPとなった。	4	・救急の応需率の高い水準にある。 ・応需率の改善を評価します。なお、市内患者の当院への搬送率がわかれば共有いただきたいと思います。 ・救急の応需率の上昇は評価できる。 ・全体の救急応需率については妥当と思われます。一方、箕面市消防からの救急車応需率は85.7%のようです。 ・84.3%は高い評価をする。断らざるを得なかった理由・状況を開示され関係者全員で共有したい。	4
5		小児医療の提供	小児病床を確保し、適切に小児医療を提供できているか。また、小児救急患者に対応できているか。	3階西病棟42床のうち30床を小児用病床として確保。 小児救急患者の受入は、受入輪番日に限らず、箕面市民と当院かかりつけ患者はもとより、豊能二次医療圏の患者を対象にできる限り受け入れを行った。(令和8年度から輪番日の日数を拡充)	3	・前年との比較や当初目標がないので判断が難しい。 ・小児用病床数(30床)の適切性を検討してもらえたらと思います。 ・小児病床の確保ができている。 ・小児医療の受入が一般に限定的であることを考えますと、3階西病棟42床のうち30床、約71%を小児用として確保したことは、小児入院を安定して受け入れるための基盤整備として評価でき、輪番日だけでなく、可能な限り広く受け入れたことも評価できる姿勢と考えます。	3
6		新興感染症、災害への対応	適切に新興感染症への体制がとれているか。また、災害発生時に備えた対応ができているか。	大阪大学大学院医学系研究科感染制御学教室と連携し、多角的に感染対策等を検証し、対策を講じた。 災害発生時を想定して、法令に基づく自主訓練、大阪府や箕面市が実施する訓練に参加し、対応力向上にも努めた。また、医薬品などを院内備蓄するとともに、停電を想定し自家発電装置の維持管理に努めた。	3	・今後も起こりえる感染症への対応や今後発生することが確実な震災等への対応なども含めて、医薬品などを院内備蓄するとともに、停電を想定し自家発電装置の維持管理に努めていることは良い方向性と考えます。 ・老朽化した設備の維持管理に努められていることに敬意を表します。	3

項番	評価項目		評価の観点	指定管理者		評価委員会	
				自己チェック	採点	コメント	採点
7	医療サービス	がんへの対応	がん診療拠点病院として、積極的ながん治療ができていますか。	乳腺センターを立ち上げ、遺伝性の乳がん治療を新たに実施するなど、治療内容を充実させた。 手術支援ロボット「ダビンチ」を使った胃がん治療を令和7年9月から実施した。化学療法の開始件数は1,612件となった。	4	・乳がんについては高く評価される ・がんの手術の内視鏡切除を含む533件はもう少し伸びしろがあると思われる。 ・新たな治療法の導入は、患者へのメリットになるだけでなく、魅力ある病院として医療スタッフの募集にも効果が見込めるでしょうからその点でも評価できると考えます。 ・化学療法1,500件見込みが1,612件と見込みより多かった。 ・「ダビンチ」導入の期待は大きい。	4
8		脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患への対応	脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患に適切に対応できているか。	脳神経外科医の確保ができず、手術適応の患者受入はできていないが、神経内科を中心とした脳血管疾患の患者を受入れた。 豊能二次医療圏では数少ない治療実施病院として初期のアルツハイマー型認知症患者に対する抗アミロイドβ抗体薬（レケンビ・ケサンラ）を用いた治療を開始した。	3	・循環器系は体制の構築が難しい。 ・脳神経外科医の確保ができていない。 ・糖尿病対策の発展は期待される。 ・今後の増大が見込まれるアルツハイマー型認知症についての病態は現在様々な発見が相次いでいるようですが、そのような傾向もふまえた新しい治療を導入されることは良い方向性と考えます。 ・医師の確保が急務。 ・1日も早い脳神経外科医の確保をお願いしたい。引き続き阪大医学部附属病院との連携も強化していただきたい。抗アミロイドβ抗体薬治療の進捗も期待を持って見守りたい。	2
9		その他の急性期医療等	政策的医療・5疾病以外で特筆すべき取り組みがなされているか。	腹部ヘルニアセンターを設置し、腹腔鏡手術を中心とした治療を開始した。	3	・ヘルニアはロボットに移行しつつある。 ・このような新たな試みはいい方向性と考えます。なお、この療法だけにかかわらず新たな治療法の導入に際しては安全性確保にも十分にご留意いただきたい。 ・腹腔鏡手術のスキルアップに精励されたい。実績向上は「選ばれる病院」の王道。	3

項番	評価項目		評価の観点	指定管理者		評価委員会	
				自己チェック	採点	コメント	採点
10	医療サービス	回復期医療への対応	回復期リハビリテーションを適切に実施できているか。	病床稼働率は目標 60%に対し 58.8%と未達であった。 新病院への円滑な移行を見据え、豊能二次医療圏にある回復期リハビリテーション実施病院との連携強化を図るため、転院パスの整備を行い、当該パスの運用拡大を進めている。	2	- 回復期病棟閉鎖へ向けて想定通り。 - 新病院移転時には回復期病棟はなくなりますが、可能であれば、それまでの間の診療方針・体制を聞かせていただきたいです。 - 今後の病院の在り方の方向性の中で、難しい選択もあるとは思われるが、今から連携強化を進めて将来に備えつつ、現在の対応もお願いしたいところです。 - 患者家族の立場になるが、体験上、急性期に担当いただいた医師が回復期にも臨床していただけることの安心感と心強さを実感している。	2
11	患者サービス	患者支援の取り組み	外来、入院患者のスムーズな受診等のための対応ができているか。	開業医からの紹介受診については、患者支援センター（地域医療室）を通じて、予約受診が可能となっているほか、地域医療ネットワークシステム（ケアミル）により診察予約が出来るようにシステムを改修。 また、医師の負担軽減を行うとともに、診察がスムーズに運用できるよう外来の医師事務作業補助者を増員し、配置。 入院サポートセンターでは、入退院調整や、地域医療機関・介護施設との連携等を担い、患者・家族の不安軽減と円滑な在宅移行を支援。	3	- インターネットで診療予約ができるようになっている。 - 例えば、地域連携は今後ますます重要になるため、患者・家族にもまた医療スタッフにとっても効率のよい使いやすいシステムを今後も進めていただきたいと考えます。 - 入院サポートセンターの設置場所の改善をお願いしたい。パーティションで囲われた場所では十分に説明が理解できない。プライバシーが守られる独立した部屋にしていきたい。	3

項番	評価項目		評価の観点	指定管理者		評価委員会	
				自己チェック	採点	コメント	採点
12	患者サービス	満足度の向上	患者等からの意見を取り入れ、満足度の向上に努めているか。	意見箱の設置や患者満足度アンケート調査を実施し、患者等のご意見、ご要望を把握し、改善等必要な措置を適宜講じた。	3	・アンケートは良いと思います。会計アプリや診察待ち時間について改善を期待しています。 ・調査結果をもとに、具体的に講じた措置を聞かせていただきたいです。 ・関係者の意見を、現在のシステムに反映していくことは大事なことなので、更に進めていっていただきたいと考えます。 ・医療従事者との対話や接遇に高い評価が得られている事は大変素晴らしく感じました。 ・アンケート調査の結果に鑑み、 ① 調査期間は通年にすべき ② 待ち時間の不満は注視すべき 早急に有効な対応策を実施すべき。快適空間・良質な患者サービスの観点で他の病院を凌駕していただきたい。	3
13	地域医療との連携		地域の医療機関等と適切に連携できているか。	箕面市医師会と共催で、病診連携懇談会を開催し、講演及び症例報告を行うとともに、2か月に1回定例で歯科医師会と薬剤師会参加のもと、病診連携懇話会を開催し、情報共有。「病院だより」「みのり一ふ」を適宜発行し、情報発信に努めた。 紹介率・逆紹介率では、目標値を上回った。	4	・病診連携がスムーズに行われている。医師会会員からも地域医療室が充実していると評価されている。 ・逆紹介率が高いことは良いと思います。 ・紹介率・逆紹介率では、目標値を上回ったとのことですが、それは地域との連携を図ることが出来ている一つの証と言えるでしょうから、今後も、地域との連携及び信頼関係の構築を進めていっていただきたいと考えます。	4

項番	評価項目		評価の観点	指定管理者		評価委員会	
				自己チェック	採点	コメント	採点
14	医療安全確保の取り組み		医療安全確保の取り組みを行っているか。また、医療事故が起こったときに適切に対応しているか。	毎月全体朝礼で「インシデント・アクシデントレポート」の内容等を職員に周知し、医療安全の取組を進めた。加えて「グッドジョブレポート」の運用も進めている。従前の院内体制及び委員会活動に加え、法人QM室による安全確保の取り組みも行っている。 また、医療事故が発生し、医療行為の適切性、瑕疵の有無、原因の検証が必要な場合は、診療行為検討会を開催し迅速に検証を行った。	3	・医療安全は、患者にとっても医療スタッフにとっても重要な問題となりますので、必要な取り組みがなされていると考えます。なお、将来的には、その検証等の結果がどのように実際に反映されたのかについても評価があればさらに良くなるように感じております。 ・医療安全確保の取り組みを適切に評価し、また評価委員として共に考えていくため、「インシデント・アクシデントレポート」の形式的な件数だけではなく、そこから得られた検証や対策について、具体例を共有していただきたい。「グッドジョブレポート」の運用は不可欠であり品の良いインセンティブも制度化されると良い。	3
15	職員の確保・育成	職員確保に向けた取り組み	必要なスタッフを現に確保し、また確保し続けるための取り組みを行っているか。	患者の療養環境の向上と看護職員等の負担軽減を目的に、看護補助者を4月と10月に雇用し、配置した。 医師、看護師、セラピスト、クラーク、事務職など随時募集を行い、必要な人材の確保に努めた。 人材確保が困難な職種は、職員紹介制度（報奨金有り）を設け、法人全体で人材確保の取組を進めた。	3	・看護師、技術職員、事務職員の増加は高く評価される。 ・現状、予定どおり確保できている職種、確保できていない職種、過剰感のある職種を聞かせていただきたいです。 ・スタッフの確保は、重要であるが非常に難しい問題でもあります。その中でも色々な工夫をされているものと考えます。今後も、複数の医療機関等を有しているメリットを活かして、更なる発展を遂げることを期待しております。 ・医療関係者の人手不足が心配だが、医師の超過勤務時間が気がかり。	3

項番	評価項目		評価の観点	指定管理者		評価委員会	
				自己チェック	採点	コメント	採点
16	職員の確保・育成	障害者雇用の取り組み	障害者の雇用確保がなされているか。	ハローワークに加えて、一般財団法人箕面市障害者事業団と連携し、見学やトライアル就労などを積極的に受け、雇用促進に努めた。 障害者雇用率は0.83%（令和7年4月現在）。 [参考] 法人全体2.11%（令和7年6月現在） 法定雇用率2.5%（令和7年4月時点）	2	・公的病院として障害者雇用は改善すべき優先事項。 ・医療機関にとって難しい問題ではあるとは承知しますが、ハンディキャップのある方の活躍が医療場面でも役立つはずなので、更に改善に向けた努力を期待するところです。 ・医療という職種上、雇用促進は慎重にならざるを得ないと思う。経験上、相当の工夫が必要だった。 ・障害者雇用率は0.83%と低く積極的に改善する必要あり。	2
17		職員の能力育成に向けた取り組み	職員の育成や能力開発に努めているか。	従前から実施している病院主催の研修会等に加え、法人主催の研修等に積極的に参加させている。 「介護と医療を考える会」と「学会」をいずれも2年に1度開催し、法人に所属する病院、介護老人保健施設、在宅介護サービス部門が各々に研鑽した内容を発表する取組を行っている。 職員の学会参加は出張扱いとし、費用負担を法人で行うとともに、特に学会発表（演者）を行うことを奨励し、費用負担等を行っている。	3	・医師の働き方改革への対応、管理業務の効率化などが、他の病院では評価項目にあることが多い。 ・連携の重要性がますます指摘される昨今において、医療だけで無く施設や介護等を含めた視野の広い積極的な取組は重要なことであり好感の持てる取組と考えます。 ・市立病院全体を働きやすい職場にするためには、 ① 全職員が心を一つにして「選ばれる病院」を目指して取り組む。 ② 全職員が高いモチベーションを発揮する。 ③ 地域のコミュニティーの核だと認識する。 ④ ステキな医師・看護師・事務職員だけが躍動する病院を実現するよう粘り強く頑張る。	3